

全労生 副議長  
(電力総連会長)

壬生 守也



私の出身の関西では  
地方労組生産性会議で  
はなく、関西生産性本  
部の委員会の一つであ  
る「労働政策委員会」  
として活動しておりま

したので、運営の違い  
現在の日本では、少  
安等を支える人材をい  
に若干戸惑いながら  
子高齢化・人口減少が  
かに確保・育成し定着  
も、昨年10月に全労生  
進む中での人材・技術  
を凶っていくのかが大  
副議長に就任させて頂  
の維持・強化や社会保  
きな課題となっていま  
きました。  
障制度の持続可能性の  
す。

運営方法に違いがあ  
確保、DX、GXの推  
そのような中で、本  
年1月1日に発生しま  
進など、働く者を巡る

## 生産性三原則を前提に取り組み

て、生産性三原則を前  
多くの社会的課題の解  
した能登半島地震にお  
提とした取り組みが重  
決に向けて労働組合が  
いては、北陸電力総連  
要であり、「安心して  
果たすべき役割は極め  
の仲間だけでなく、全  
働き、暮らしていける  
て重要です。

持続可能な社会を目指  
私たちが従事してい  
ます電力関連産業にお  
「とした生産性運動  
懸念に復旧作業を行っ  
の目的は変わらないと  
いても、将来にわたる  
電力安定供給や電気保  
ています。

昨年、自然災害が多  
成り立っていることを  
発しており、その都度、  
決して忘れてはなりま  
私たちが電力関連産業の  
せん。

職場では、当該地域の  
さらには、生産性運  
組合員のみならず、全  
動を労働組合のない企  
国各地から応援に駆け  
業で働く皆さんにも浸  
付け、懸命に対応して  
透させていく必要があ  
おりますが、そのこと  
ると考えています。

は企業収益など、成果  
そのためには、時代  
として目に見える数字  
の変化に応じた生産性  
には表れてこないのが  
現状です。  
三原則を正しく理解  
し、進むべき方向性を  
議論し、全ての働く仲

生産性運動を推進し  
ていく原動力は「人」  
間を含めた社会全体に  
です。これだけAIを  
生産性運動を広げてい  
はじめとするデジタル  
くために、微力ではあ  
化が進んでも、最終的  
りますが、その役割を  
には人の営みによって  
果たしてまいります。